

令和7年度

事業報告書

自 令和7年 2月 5日

至 令和7年12月31日

一般社団法人ひとつの世界・ひとつの家族

1. 事業の概況に関する事項

(1) 事業の経過及びその成果（全体概要）

当法人の創設年度にあたる本年度は、「One World One Family（ひとつの世界・ひとつの家族）」の理念を具現化するための基盤づくりに注力いたしました。特に「人間開発プログラム」を最重要事業と位置付け、次世代の人材育成、ボランティア精神の啓蒙、および慈善活動の促進を目的として、予算の大半をこれらプログラムに投入いたしました。

国内においては100人規模のコンフェレンスを成功させ、国外においては世界100カ国のグループが一堂に会する国際的な交流イベントを通じて、国境を越えたインスピレーションの共有と連帯を強化いたしました。

一方で、既存のボランティア活動については、ホームレスの方々への定期的な食事配給を継続し、新たな食材供給ルートの開拓にも着手いたしました。しかしながら、主要プログラムへの集中に伴い、教育事業や朝食プロジェクトについては当初の計画を進展させるに至らず、次年度の「高齢者支援」へのシフトを見据えて延期・整理の判断を行いました。本年度は、これらの経験を糧に、超高齢社会における支援という新たな重点課題へ舵を切る準備を整えた一年となりました。

2. 事業別の報告

① 人間開発プログラム（重点事業）

● 活動内容:

事業の目的と基本方針: 当法人の創設年度として、「One World One Family」の理念を国内外に浸透させ、慈善活動の担い手となる人材を育成することを最優先課題としました。そのため、本年度予算の大部分を国内外の人間開発プログラム（HDプログラム）へ集中的に投入いたしました

- **国内/ONE WORLD ONE FAMILY コンフェレンス（東京）:** 6月に東京にて100人規模のコンフェレンスを開催し、ボランティアの啓蒙とネットワーク構築を行いました。

国際的なインスピレーションの共有: 海外より人道的活動を積極的に行う人道主義者とその関係者10名をVIPゲストとして招待しました。各国の慈善活動の紹介やHDプログラム（講義、カルチャルプログラム等）を通じて、ボランティアの啓蒙と世界的な協力の和を広げる場としました。国際的な文化交流の場としても、伝統芸能の公演も行い、日本の伝統をゲストと参加者に体験してもらいました。

設立記念の象徴的活動: 当法人の設立を記念して、設立記念の式典を行いました。設立記念の楯にVIPゲストに署名をしていただきました。

これは世界的な連帯の誓いを形にしたものであり、今後の活動における精神的支柱となります。

ホスピタリティとコミュニティ形成: 参加者には、健康的な食事（お弁当）や記念ギフトを提供しました。これらのおもてなしを通じて、参加者間の親睦を深め、心身ともに満たされた状態での学びを促進しました。

- **外部機関・産業界との連携協議:** コンフェレンスの開催に合わせ、招待ゲストと共に別日程で以下の活動を実施しました。

学術協議（東京農業大学）: 東京農業大学を訪問し、将来的に懸念される「食料・エネルギー難」に対する協議を行いました。国際的な慈善活動の知見と学術的視点を融合させ、持続可能な支援の在り方について深い議論を交わしました。東京農業大学とは、インド本部の教育機関と連携して研究を進めることが話し合われました。

産業連携（有機農業関連企業、AGBIOTEC 社のコンフェレンスへの参加）: 国内の自然栽培関連企業である AGBIOTEC 社が主催するコンフェレンスに参加しました。VIP ゲストによる講壇を質疑応答形式で行い、農業や食を通じた社会奉仕・環境問題に関する知見を共有しました。自然栽培の先端的な農業技術を学び、国内外の食材提供プロジェクトをより高度なレベルで展開するための基盤を築きました。

- **国外/「ONE WORLD ONE FAMILY カルチャーフェスティバル」:** 2025 年 8 月から 11 月にかけて、南インド・バンガロール近郊のムッデナハリで開催された国際交流プログラムに参加しました。このプログラムは世界 100 か国から慈善事業団体が参加して 100 日間連続して「ひとつの世界・ひとつの家族」の精神を祝い、多様性の中の一体性を学び、インスピレーションを共有することで、世界中に慈善事業を促進するものです。

このイベントはボランティア活動の祭典でもあり、現地で様々な種類のボランティア活動が企画されました。イベントの説明や準備のために、都内の会場を借りて（またはオンラインで）説明会を複数回設け、最終的に当法人からは 20 名ほどの参加者を集い、ボランティアとして（一部通常参加・アーティスト）参加しました。

多文化交流と共有: 各国がそれぞれの日を担当し、慈善活動の報告やその国の文化の紹介をしてインスピレーションを共有しました。各国の伝統芸能が毎日公演され、世界中の多様な文化的伝統がひとつの場に集うことにより、多様性の中にある一体性を体感する機会を作り出しました。日本からは、世界的に活躍する笙奏者大塚淳平氏夫妻に公演を依頼し、合計 10 名のアーティストを派遣いたしました。同氏による日本の伝統的精神の公演は、各国の参加者から高い評価を受け、日本の伝統精神を世界へ伝えるとともに、文化を通じた国際親善に大きく寄与しました。最終日には約 70 か国のアーティストが集い世界最大の「One

World One Family」グローバルコンサートを行い、多様性の中の一体性を祝いました。

食文化の交流：日本の日では、物性食材を使用しない「ベジタリアン寿司」6,000貫を完成させ、来場者に提供しました。日本からのボランティアが中心となり、世界各国のボランティアと協力して早朝から調理を開始。寿司に使用する食材は、現地の日本食材店と連携して調達し、品質管理を徹底しました。日本の伝統的な味は極めて高い評価を受け、特に現地の学生たちからは大好評を博しました。これは単なる食事提供に留まらず、調理の過程で各国のボランティアと共同作業を行うことで、深い連帯感を生む貴重な機会となりました。

日本の「おもてなし」の精神を伝えるため、古くからの歴史を持つ日本の名店から5,000個の最中を調達し、各20キロにもなる複数の箱をボランティアが分担してインドの会場へ運びました。伝統的な和菓子を共有することで、日本の豊かな文化と繊細な技術を紹介しました。

表彰と連帯：各国で活躍する顕著な功績のあった人道主義者に対して「ヒューマンエクセレンス・アワード」が授与され、互いに称え合う場が設けられました。各国で活躍するスピリチュアルリーダーもその国の精神的な側面から一体性について登壇しました。日本からは、母子家庭や子供たちを支援する慈善事業団体チョイふるの代表の栗野泰成氏を表彰し、スピリチュアルリーダーとして小野隆光氏にご登壇をお願いし、表彰いたしました。表彰は、社会の諸課題に対し卓越したリーダーシップを発揮する個人の功績を、国際的な舞台上で広く称えることを目的としており、世界基準の評価を個人の活動に付与することで、受表彰者自身のさらなる飛躍を後押しするだけでなく、日本国内における慈善活動への注目度を高め、寄付文化の醸成やボランティア参加の促進といった、慈善事業全般を力強く支える原動力となります

- **成果と収支の背景:**人材育成と活動促進のため、本年度予算の大部分を本事業に配分しました。主要な支出は、ゲストの招聘費用（旅費交通費・滞在費）、会場運営費、アーティスト報酬、記念品費、食費等でした。この事業は、今後の活動の核となるボランティア人材の意識向上と、国際的な協力体制の確立、大学や企業との専門的な連携など、当法人の社会的信用を構築するための不可欠な投資として執り行いました。日本国内の活動を世界基準へと引き上げるための貴重なインスピレーションを得る機会となりました。

② 既存の慈善活動への協力

- **活動内容:**当法人は、自社事業の枠を超え、同じ志を持つボランティアチームや他団体との連携を深めています。以下のプロジェクトは、当法人のメンバーが深く関与し、自律的な運営体制のもとで素晴らしい成果を上げています。当法人はこれらの活動を「One World One Family」を構成する大切なパートナーシップとして位置づけ、ボランティアの促進などを通して相互にインスピレー

ションを共有しています。当法人は、それらを一つの大きな家族（Family）として繋ぐプラットフォームとしての役割を担っています。

- ▶ **フードサービス（横浜、秋葉原、上野）**：横浜の地区センターにボランティアが集ってお弁当を作り、夕方に各方面へ出向き対象者に配布しています。月1回、横浜市中区の関内駅・馬車道駅界隈や横浜球場・で生活している路上生活者さんに対し、45食を配布しています。秋葉原・上野方面においても、メンバーが週に1度、自宅で炊いた酵素玄米でおにぎりを作り、昼食時間帯に秋葉原駅から上野駅まで歩きながら、点在する対象者におにぎりを配っています（月30食程度）。その他、各地で（新潟・長野など）でもメンバーが困窮者に対して自主的に食事を配っています。
- ▶ **ワクワク便（一般社団法人チョイふる）**：ワクワク便については、当法人の理事が理事を兼ねる別組織によって自律的に運営されています。行政と連携してリスクの高い困窮・母子世帯へ、カゴいっぱいのお野菜、お米、麺類、乳製品などを車で一軒一軒届け、お悩みなどのヒアリングを実施。当法人は、このプロジェクトを、理念を共有する『パートナーシップ事業』と位置づけ、意見交換やボランティア促進などを通じて活動の質を高め合っています。
- ▶ **かんしょくプロジェクト（一般社団法人最愛の食卓）**：当法人の理事が代表理事を兼ねる別組織によって運営されるフードロスを困窮世帯に届ける活動です。消費者庁・東京都・フードロス議連と連携しながら、都内だけでも毎日何万トンと捨てられる食料を、企業との契約を通して、1日100食、月に2000食を届けることを目指しています。当法人はこのプロジェクトを、理念を共有する『パートナーシップ事業』と位置づけ、ボランティア促進などを通じて活動の質を高め合っています。

③ 食材提供プロジェクト（OneFamilyキッチン）

- **活動内容**：生産者とのネットワーク構築に着手し、各地のフードサービスグループや地域のフードバンク等、協力団体への食材提供をしています。
- **状況報告**：数名のボランティアが中心となり、月数回食材を調達し、各地のフードサービスに提供しています。米や野菜など、80-120名分の食料を調達しています。支援者と困窮者を繋ぐモデルとして、実務的な橋渡しを行いつつ、支援者と困窮者の輪を広げています。定期的な各地のフードサービスへの食材提供に加え、本年度は、長野県の生産業者の方とも協力し、協力団体である一般社団法人チョイふるが行う「ワクワク便」への食材提供を行い、実質的に活動を支援することができました。

④ 情報発信

- **活動内容:** ランディングページとしての公式サイトを新規作成しました。また、メーリングリストを活用し、ボランティア活動や人間開発プログラムの情報をタイムリーに共有し、参加を促進しました。
- **成果:** デジタル基盤を整えたことで、支援者との直接的な接点と情報共有のルートを確認しました。

⑤ 教育活動（人間的価値教育）

- **状況報告:** 当初計画していた教科書の翻訳作業等を進めてまいりましたが、その作業が一段落し、次の教育活動に向けて具体的な計画を立てる段階となりました。教育事業として運営がしやすいように、本事業は当法人のメンバーによる別団体にて当面継続されることとなりました。
- **今後の対応:** 人間的価値の教育促進事業は維持しつつ、当法人としての今後の関わり方については、改めて検討事項といたします。

⑥ 子供支援活動

- **朝食提供プロジェクト:** インド本部での大規模な実績（毎日数万食配布）をモデルとした国内展開を計画していましたが、本年度はリソースの兼ね合いから着手できませんでした。次年度以降、日本国内での実施機会を模索してまいります。
- **あだちキッズカフェ（一般社団法人チョイふる）:** 当法人の理事が理事を兼ねる別組織によって運営されている困窮世帯の親子向け居場所事業。あだちキッズカフェは行政と連携して困窮母子世帯に対し、食事提供、学習支援などを行っており、当法人の理念を共有する『パートナーシップ事業』と位置づけ、今後さらに協力体制を整えたいと思っています。
- **折り紙プロジェクト:** ハート型の折り紙にキャンディーをいれたギフトを子供たちが作り、インドの病院の子供たちに送る「折り紙プロジェクト」が年に数回（各 300 個以上）メンバーによって行われています。

3. 次年度の対処すべき課題と方針

次年度の基本方針

本年度の成果である「人間開発プログラム」を通じて得られた、ボランティア精神と国際的な連帯の基盤を活かし、次年度は既存の慈善事業を維持・拡大しつつ、新たに「超高齢社会における孤立高齢者への支援」を重要課題として掲げます。

社会背景と取り組む意義

現代日本が直面する超高齢社会において、かつて国家や地域を支えてきた先達が孤独や困窮に苦しむ現状は、看過できない課題です。こうした方々を慈しみ、敬う心は、社会全体の道徳的基盤を再構築する原動力となります。支援を通じて「感謝」や「助け合い」といった人間的価値を社会に広めることは、私たちが目指す「One World One Family（ひとつの世界・ひとつの家族）」という、より良い社会の実現に寄与するものと考えております。

高齢者支援活動の具体的な取り組み

次年度は、以下の三層の支援体制を軸に稼働いたします。

- **草の根的な個別支援:** 各メンバーに対し、身近にいる困難を抱えた高齢者への直接的な関わりを推奨しています。週に一度の対話や食材の支給など、日常的な「寄り添い」を通じて、孤独感の解消と生活の質の向上を働きかけてまいります。
- **グループ活動によるコミュニティ形成:** 高齢者を対象とした定期的なグループ活動を企画し、孤立を防ぐための居場所づくりを行います。こうした集団活動を起点として、個人レベルの支援の輪が自然に広がるエコシステムの構築を目指します。
- **拠点型支援（岐阜県におけるモデルケース）:** NPO 法人ワンワールドワンファミリーホームが法務局から認可され、岐阜県・愛知県近辺にて、デイサービスを提供できる拠点を立ち上げます。来年度からの本格稼働に向けて細部を調整中であり、地域に根ざした具体的な支援モデルを確立いたします。

以上